

料名「雨のバスでいりゅう所で」 (光村図書 4年 p98、「主として集団や社会との関わりに関して」規則の尊重 光文 4年 p100 「主として集団や社会との関わりに関して」規則の尊重 学研未来 p138 「主として集団や社会との関わりに関して」規則の尊重 教育出版 p64 「主として集団や社会との関わりに関して」規則の尊重 あかつき p42 「主として集団や社会との関わりに関して」規則の尊重 学校図書 p140 「身の回りの大勢の人たちとの関わり」規則の尊重

1. 本教材について

▼雨が降っていたため、人々は停留所ではなく、その近くの雨宿りできる場所で列を作ってバスを待っていた。よし子はバスが見えたので、走って停留所の先頭に並んだら、お母さんに怒られてしまった、という話である。「考えよう」の欄には、「約束やきまりを守るために大切なことは何でしょう」「あなたが雨宿りをしている一人だったら、よし子の行動をどう思ったでしょう」という問いがあって、よし子の行動を「きまり」違反と捉えているように見える。「つなげよう」の欄には「みんなが気持ちよく過ごすためにはどんなことに気をつければよいか」とあって、前述の問いを補っている。本教材にあるようなことは日常的によくあることで、おおくの場合、「きまり」がはっきりしていない、しかしあえて自分なりに解釈して行動すると、もめ事の原因や白い目で見られる原因になる、だから迷う、ということなのではないだろうか。バスの停留所と雨宿りしていた場所がどれほど離れていたのか、など具体的な状況がはっきりしなければ何ともいえない、ともいえる。読み方によっては空気を読め、と言っているようにも、事なかれ主義をすすめているようにも感じる。
「きまり」とはなんなのか、暗黙の了解をきまりとしても良いのか、きまりがはっきりしていない中でよし子の行動がいけないことなのか、考えるべきことは多い。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

「きまり」というものを多面的、多角的に考えてみる材料とすることを第一に考えた。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	同じようなことがなかったかどうか聞く。 ワークシート、に教科書を読んでよし子の行動をどう思ったかを中心に感想を書く。5分程度。	教師が例を出しても良い。
展開	6,7人のグループに分かれて各班が役割演技を行う。 よし子の役、並んでいた人たちの役、観察者1名。 グループで相談し、よし子を強く非難する人(1名)、よし子を弁護する人(1名)残りのどっちつかずの人、と分かれて、雨の中の情景を演出する。 観察者は適当なところで芝居を止め、見ている人たちの意見を聞く。何度止めても良い。 1グループの演技が終わったら2グループ目の演技を同じように 行う。2グループ目は1グループ目の演技を見てどのように芝居 を展開するかあらかじめ相談した上で開始する。時間を考えて演 技するグループの数を決める。	ロールプレイを止める役は教師がしても良い。 だらだらと続いてしまう可能性もあるので時間をあらかじめ決めておくと良い。
まとめ	ワークシートに最初と同じように「よし子の行動」をどう思ったのか、について感想を書く。最初の感想と、変わった場合にはその理由も書く。	教師は子どもたちの判断を左右するようなことは言わないようにする。

